

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【針ヶ谷小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な技能の定着が図れた。さいたま市学習状況調査の結果からは、国語において、他の領域に比べると、「読むこと」に課題がみられる。学校図書館の活用等、読書活動の充実を推進していく。また「ドリルパーク」に取り組んだ結果をスクールダッシュボードにより把握し、個別の支援に活用をしていく。
思考・判断・表現	算数では、図と立式の意味を関連づける問題に課題がみられたため、数直線を含め、それに類する図を、発達段階に応じて、系統立てて指導していく。理科において実験結果を基に分析して考察すること課題がみられたため、日頃の学習から結果を基に分析して考察する学習活動をより、重視して取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上を維持する。かつ、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の質問項目においても、R5年度よりも向上できるように、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていく。

① 目標・策			
	目標		策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果と同等以上の結果とする。	⇒	「ドリルパーク」や「スタディサブリ」を活用し、言葉の使い方や漢字・基本的な計算等の反復練習に取り組む。月に1度程度児童の学習履歴を担当教員が確認し、今後の学習支援に活用する。その際、児童自身も個別に学習計画を立てる時間を設定する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校の結果から、平均無解答率を1割分下げる。	⇒	多種多様なテキストを読み解く学習活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	授業において、「学習の質的向上を目指す『学びのポイント』の「自分で決める」にある学習課題や学びの方法を児童が決める場を設定する。

<小6・中3> (4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」に関わる領域において、算数ではR4年度の自校の結果と同等以上の結果であった。国語では、昨年度の自校結果には及ばなかった。「ドリルパーク」や「スタディサブリ」の活用が進み、隙間時間にも反復練習に取り組むことができた。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校の結果から、国語・算数共に平均無解答率は半分以下であり、昨年度から1割分よりも下がったため、目標を達成できた。タブレット端末を活用し、共同編集による協働的な学びが行われている。	A
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、R4さいたま市学習状況調査では、肯定的回答の割合は、89.8%であったが、R5年度の肯定的な回答の割合は91.8%であり、目標を達成できた。「学習の質的向上を目指す『学びのポイント』」を各教室に掲示し、児童が意識して学習に取り組めた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語では、全ての問題において、漢字を文の中で正しく使う問題に課題が見られた。解答類型を見てみると、「意外」の「意」を解答できなかった児童が多く見られた。算数では、二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題に課題が見られた。
思考・判断・表現	国語では、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題に課題が見られた。図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することを重視する。算数では、言葉や数を用いて理由を説明する問題に課題が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は91.7%で昨年度の自校結果を上回った。引き続き、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
	目標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

中間評価(9月)
目標・策の見直し

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査の結果は参考値扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、算数ではR4年度調査より+2ptであった。国語では、登場人物の性格を想像して文章を読む問題に課題がみられた。全体の無回答率は、大きく減少しR4年度の半分以下になった。教科への興味関心について、国語・算数共に肯定的な回答の割合が80%以上と高い傾向がみられた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、算数ではR4年度調査より+3ptであった。「ドリルパーク」や「スタディサブリ」を活用し、基本的な計算等の反復練習に取り組んだ成果がみられた。国語では、目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読む問題に課題がみられた。教科への興味関心について、国語・算数共に肯定的な回答の割合が70%以上と高い傾向がみられた。
小5	算数では、興味関心について肯定的回答の割合が81.9%と昨年度の4年生との経年比較で1%以上の上昇がみられた。また、無回答率が0%であり、最後まで問題と向き合い、取り組む姿勢もみられた。国語では、俳句を詠んだ作者の心情や情景について、描写を基に捉える問題に、算数では、数直線と式の意味を関係づける問題に課題がみられた。	小6	国語・算数・社会・理科の4教科で「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の質問項目において、肯定的回答が全教科90%以上であり、学習に対して、前向きに取り組むことができています。国語では、無回答率が0%であり、最後まで問題と向き合い、取り組む姿勢がみられた。